

JAICOH NEWS LETTER

NO:61 2011 年 1 月発行



歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

〒113-8549 東京都湯島 1-5-45 東京医科歯科大学 歯学部口腔保健学科
URL: <http://jaicoh.org/> Email: info@jaicoh.org Tel: 03-5803-4971
郵便振込: 00140-9-599601 歯科保健医療国際協力協議会
発行: 白田千代子 編集: 中久木康一

2011 年を迎えて

歯科保健医療国際協力協議会 (JAICOH)
会長 白田千代子

明けまして、おめでとうございます。

私は、今年を躍動の年にしたいと思い、久しぶりにネパールにて新年を迎えました。

勿論、遊びではなく ADCN (ネパール歯科医療協力会) の現地活動です。ネパールカトマンズの近郊では、現地の人々の自立活動の視察、支援や情報交換でした。今年は、数年前から開始した山岳民族の暮らしや食生活、保健行動、口腔状態などの調査をすると同時に山岳地帯での暮らし方を教えていただきました。酸素不足になったり、いまにも崖から落ちてしまいそうな危険と背中合わせのところ、高齢者が遅く独居生活している姿を目の当たりにし、人間のたくましさを感じるとともに、日本人の暮らし方に多くの疑問を持ちました。新年早々厳しく、素晴らしく美しい自然の中で、質実に美しく生きている高齢者と出逢え、今年目的達成に幸先の良いスタートをきることができました。

JAICOH では、今年、年 4 回の会員交流会・活動報告会だけでなく、一般の方たちにも広く会員のそれぞれの活動をアピールしていきたいと思えます。



JAICOH 冬の研修会（ご案内）

JAICOH20年目にして、はじめて歯科衛生士が代表となりました。国際保健は、医師よりもむしろ看護師／保健師によりリードされています。歯科の国際保健においても、歯科衛生士の役割は重要です。

しかし現状では、歯科衛生士よりも、歯科医師が中心となっていると思われます。それはなぜなのでしょう？開業医で診療補助ばかりになってしまうと、保健活動への興味がそがれる？いや、興味はあっても、仕事が休めない？それとも教育課程に刺激が足りない？はたまた、企業の歯科室などが閉鎖されて国内の歯科保健自体が低迷気味？？？

いまいちど、どうしたら歯科衛生士が、看護師・保健師・栄養士の如く、国際保健の分野で活躍できるのか、ということを考えてみたいと思います。なるべく具体的にするために、今回はカンボジアとゆかりのある方々から、それぞれの活動紹介とともに「歯科衛生士は国際保健の現場においてどのように働けるのか」をなげかけていただき、どのようなことが必要とされていて、どうしたらよい連携が組めるのか、皆で話しあってみてみたいと思います。

国際保健における、歯科衛生士を含むコメディカルの必要性や連携などについての意義づけができれば、それは今後の歯科衛生士教育にも反映できるもので今後役立つと思います。また、カンボジアという国において、国際援助や経済発展とともに起こってきた変化などについて考察しつつ、保健とはなんぞや、支援とはなんぞや、という部分についての多方面からの意見を聞けたりしても面白いかと思えます。

日時：2月27日（日）、15時～18時

場所：東京医科歯科大学 1号館6F 第3・4演習室（変更しました）

テーマ：「歯科衛生士は国際保健の現場でどのように働けるのか」

議題提供者：

高橋優子さん（アドミニ、元カンボジア NGO-JICA ジャパンデスクコーディネーター）

藤山美里さん（歯科衛生士、NPOカムカムメール）

柳澤理子さん（看護師、愛知県立大学看護学部）

司会進行：中久木康一

※ なお、講演会前の13時から、役員会を開催いたします（1号館8F セミナー室）。

春の研修会は口腔衛生学会にあわせて千葉にて5月21日（土）に、夏の総会・学術集会は、愛知学院大学の夏目長門教授により名古屋にて7月3日（日）に、予定しています。

今後、研修会・交流会を開催していただける方は、事務局 info@jaicoh.org までご連絡ください。

各団体の会を JAICOH にオープンにいただき、共催・後援という形にしても、個人が企画を持ち込んでの JAICOH 主催という形にしても、よいと思います。いずれにせよ、研修会が増えれば多くの人にとって参加できるチャンスが増えますので、JAICOH としては積極的に開催していきたいと考えています。

JAICOH 学生研修会（ご報告）

10月2日（土）に、東京医科歯科大学にて、JAICOH 学生研修会「学生サークル活動から国際歯科保健活動の今後を考える」を行い、30余名が参加しました。

第1部では神奈川歯科大学、東京歯科大学、北海道大学、鶴見大学、日本大学松戸歯学部計5校が各大学の国際保健サークルの活動発表を行いました。第2部では「学生サークル活動に期待するもの」というテーマでそれぞれ違う立場で国際保健に携わっている3人の講師によるディスカッションが行われました。

第1部：「サークル活動の現状」

座長：谷野弦（日本大学松戸歯学部口腔外科）

●神奈川歯科大学・国際医療ボランティア研究会：齋藤孝平（神奈川歯科大学5年）

2005年の研究会創立以来、国外活動はスタディーツアーでの歯科教育・モバイルクリニックの手伝い・学生交流・病院見学などで、過去5回タイを訪れている。2010年3月には、タイのバンコクとナンを訪れ、バンコクではマヒドン大学の学生と学生交流を行い、農村であるナンではホームステイを行った。その他に国内活動として、特別養護老人ホームでの口腔ケアボランティア、校内清掃、障害者・外国人・ホームレスの無料健康相談会への参加を、定期的に行っている。

学生活動の問題点は、①言語、②文化／宗教、③ニーズ、④ライセンスではないかと思われるが、それぞれ、①勉強、②リスペクト、③関係性を気付いてのニーズ調査、④歯科以外の国際保健、という対応が必要と考えられる。

●東京歯科大学・国際医療研究会：谷口健太郎（東京歯科大学歯学部2年）

1997年の研究会創立以来、10回の海外スタディーツアーを企画しており、タイ、ラオス、ミャンマー等、東南アジア諸国を訪れている。2010年3月はラオスを訪れ、首都のビエンチャンでは大学や大学付属病院の見学や小学校視察を行い、農村・ボケオーでは引率教員の調査の手伝いを行った。また、APDSA（アジア太平洋歯科学学生協力会議）への学生派遣、老人ホームでの口腔ケアボランティア、在日外国人への無料歯科相談会の手伝い等を行っている。

学生個々が主体となった活動・評価などがどこまで出来るかが課題である。

●日本大学松戸歯学部・国際保健部：島田啓示（日本大学松戸歯学部4年）

2001年から、南太平洋医療隊のトンガプロジェクトへ参加している。現地の幼稚園で歯磨き習慣やフッ素洗口に関する紙芝居を行った。また、スタディーツアーへの参加し、患者へのインタビューや口腔衛生指導もしている。2007年は東ティモールスタディーツアーに参加した。国内では、グローバルフェスタへ出展し、トンガの活動報告と共にフッ素洗口体験を行い、APDSAへ参加もしている。

「現状を知り、その状況を人に伝え、自分に何が出来るかを考え、出来ることを実行すること」が大切と考えている。



●鶴見大学・国際対口腔がんボランティア協力隊（VOCC）：小林幸葉（鶴見大学歯学部5年）

2008年に沖縄の高齢者介護施設でのがん検診に学生が参加し、その期に団体を設立した。AFOCを母団体としている。今後はスリランカや台湾での活動を計画している。

●北海道大学・冒険歯科部：中元絢子（北海道大学5年）、石丸美穂（北海道大学5年）、長南奈欧（北海道医療大学4年）

1999年にバックパッカーの学生が海外活動をする先生を訪問し、その後2002年から冒険歯科部として活動している。毎年スタディーツアーを行っているが、2008年から冒険歯科としてJICAの草の根活動で3年間バングラディッシュで活動した。子供たちへの歯磨き指導などを通じて、歯を磨く人は50%から80%に増え、地域の人や保健所が動き始め、現地のDrや学生とも一緒に活動している。来年度からはスリランカのフッ素のプロジェクトもはじまる予定。

問題点としては、資金調達や常識・識字率の違いなど。近年は他大学からの参加者も増えてきている。

●討論：

- ・ネットワークをつくりたいが事前の準備が大変。
- ・参加者のモチベーションや準備には、「参加したい」と思わせる雰囲気づくりが大切。
- ・現地での教育をするにあたっては、間をつなぐ人材が重要。
- ・緊急海外医療援助というと、命を救うもの。それに対して、歯科の国際保健は、習慣を変えることにより、生活の基盤を改善することではないかと考えている。



第2部：「学生サークル活動に期待するもの」

～学生時代の経験、活動に関わるきっかけ、そして、学生活動への提言～

座長：中久木康一（東京医科歯科大学顎顔面外科）

●岡井有子（歯科医師・看護師、大阪歯科大学小児歯科）

以前から、国際協力に興味を持っていた。看護師として働いていく中で歯科に興味を持ち、歯学部に入部。大学6年間はワンダーフォーゲル部として活動し、国際保健は忘れていたが、6年生の時に村居先生を通じてJAICOHを知り、卒業後の研修医時代にネパール歯科医療協力隊に参加した。

学生として国際保健活動にかかわる事は素晴らしいと思う。語学力・宗教や文化を学ぶ事は必須だが、健康と言う概念を自己認識し、どう現地に伝えるかが重要。歯科治療は人を集めるために必要だが、歯科治療よりもTBIのほうが重要であり、ライセンスがなくてもできる事は多い。継続は必要であり、仲間さえいればやろうとすればいつでもできる。

●根木規予子（歯科衛生士、歯科医院勤務）

歯科衛生士として4年間勤務後、国際協力や国際保健を学ぶために大学へ進学。大学でネパールでソーシャルワーカーとして活躍された先生を通し、中村修一先生を紹介していただいた。在学中にネパール歯科医療協力隊に2回参加。現在も活動を継続しつつ、開業歯科医院に勤務している。

自分が衛生士の学生時代には、国際保健活動に携わりたくてもどこにアクセスし、誰を頼ればいいのかわからなかった。今日これだけの学生の活動があるのは羨ましい。国際協力活動は、現地での活動以上に、日本国内で行うことがはるかに多く重要だ。支援者（スポンサー）へのケアやプロジェクト準備、打ち合わせなど事務的な業務がある。現地への関心を維持させながら、国内の仕事や活動に喜びや醍醐味を感じられるようなタフさがなければ継続は難しい。

学生は「ライセンスがないから何もできない」「どうしていいかわからない」とよく言うが、臨床経験があっても初めて参加した時は何もできなかった。まずは参加してみて、携わってみる事が最初のスタート。何ができないのかを知ること、「計画 - 実行 - 評価」を通して体験することも大切。分野に関わらず、人との出会いは財産。一人の医療者として、自分なりの関わり方やスタイルを見つけて欲しい。

●門井謙典（歯科医師、宝塚市立病院歯科口腔外科）

高校時代に災害ボランティア活動に参加し、現地の実情と報道されている内容は違うことを思い知った。その後、一度理学部に入ったが、歯学部に入り直した。東京歯科大学では、スタディーツアーやAPDSAに参加したが、それ以外にも、ヒッチハイク旅行やアメリカ一周など海外にはよく行った。

ライセンスを持っているからと言って、何でもできるわけではない。これからも歯科での貢献を目指して行くのか、他の面での貢献を考えるのか、はっきり見えてはいない。

学生は、卒業したら歯科については出来るので、学生の時は色々なことに視野を広げて、多くを考えて欲しい。歯科は生活の中での優先順位が低い分、歯科から全身を通じて生活が診られるかという、歯科医療者個人の人間性が試される。

●討論

- ・海外での活動には、仕事の的にも個人的にも、周囲の理解・信頼を得るよう努めることが必要。周囲の人を説得できないようでは、現地の人を説得することはできない。
- ・若い人材が国際保健分野に入ってくる事は、歓迎。
- ・さまざまなバックグラウンドを持った人がいれば、多面的な考え方をできる。
- ・歯科は保健の一部として他分野（医科、社会分野）との協力が不十分であり、今後連携を進展させて行くべき。



記録協力：田中らいら（東京歯科大学4年）

歯科衛生学会に参加して

東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科衛生保健部 足達 淑子

平成 22 年 9 月 18～20 日に開催された歯科衛生学会に参加しました。多くの演題がある中、「カンボジア王立保育者養成センターにおける口腔保健指導の取り組み 第 1 報 ワークショップとその結果」(NPO カムカムメール 藤山美里他)、「カンボジア王立保育者養成センターにおける口腔保健指導の取り組み 第 2 報 口腔衛生知識・行動についての調査」(NPO カムカムメール 佐々木眞佐子他)の発表が目にとまりました。

その理由は「歯科衛生士でも NPO で活動している人がいる」ましてや「その活動場所が海外」この 2 点はその理由です。

活動の内容も、次世代を育成する保育者養成センターの学生に対して、これから仕事に就いた際に「それぞれの現場で子供たちに口腔保健指導が行えるように」という目的で行っているとのこと、自分たちが直接子供に対して指導してくる活動はありますが、これから教育者になる人(しかも医療職種以外)の人に口腔衛生指導できるようにするということは大変なことだと思います。最近歯科衛生士が色々な場面で活動していますが、まさに歯科衛生士の基幹業務である保健指導という点が、素晴らしく思います。

日本の歯科衛生士の多くは歯科診療所にて勤務していますが、こうして「世界に飛び出し活動できる職種」と改めて歯科衛生士を見直したような、力をもらったような気持ちになりました。近年臨床に携わっていると、歯周病などを一つの分野を専門的に掘り下げていく傾向を強く感じていました。しかし、こうしてフィールドに出て広く啓発活動していくこと、自分たちだけでは限られた範囲しか及ばないことをさらに教育者を増やしていくという視点が現在の自分には乏しかったと反省をしました。まさに歯科衛生士の原点の活動だと思います。

海外での活動は、時間的にも経済的にも困難であるとは思いますが、この活動を「ぜひ続けていただきたいな」思います。また、できうることならこの数年後ここで指導を受けた人の意識がどのように変わっているのか。実際の赴任先で指導しているのかなど追跡調査していただきたいです。そしてこの活動が発端となって、近い将来にカンボジアの歯科衛生に携わる人がこのような活動展開できるように広げてくださることを期待しております。

「International Symposium for Global Oral Health Science Niigata 2010」に参加して

鶴見大学 予防歯科学講座 古川 清香

2010 年 10 月 9 日、新潟大学と WHO 口腔保健センターの主催で開催された国際シンポジウム Session I に参加してきましたので報告いたします。

本シンポジウムは、前日まで 3 日間にわたって行われた日本口腔衛生学会の翌日朝 9 時からの開催でした。それにも拘わらず出席者は準備されていた机と椅子が不足し、会場外からの椅子を追加するほどの盛況ぶりでした。

Session I では、12 人の演者により「Oral Health—General Health（口腔と全身の健康）」に関連した講演が行われました。学会では、講演が重複し、自分の興味のある分野を中心に会場を選択することが多々ありますが、本シンポジウムは1つの会場に缶詰になり、普段は耳にしないう多方面からの口腔と全身の健康に関する講演を聞く有意義な機会となりました。すべての講演を紹介することは難しいので、外国からの招待の先生を中心に講演の内容を紹介致します。

WHO の口腔保健主任である Petersen 先生は、「なぜ、口腔が全身との関連があること、そのメカニズムをより明らかにしていくことが重要なのか」、という視点からのシンポジウムの口火をきる講演をされました。“現在、世界の慢性疾患での死亡者数は急性疾患での死亡者数よりも多く、慢性疾患の予防が大きな課題です。歯周病やう蝕も慢性疾患であり、ほかの慢性疾患同様に Common Risk factor が関連する疾患であり、人々の QOL と関連しています。口腔と全身の関連を明らかにすることは、口腔保健の推進が、慢性疾患の予防、人々の QOL の向上につながることを明らかにするから大切です。”とお話されておりました。多くの研究により、口腔と全身の関連が明らかにされてきていますが、「なぜ？その研究を進めることが大切なのか」という視点を、常に持ち続けること、研究結果がどのように人々に還元できるのかを見据えていることの大切さを感じました。

最も質疑応答が盛り上がったのは、タイのコンケン大学から見えた Pitipat 先生による口腔保健は栄養摂取との関連性のお話でした。講演の中でアルコールの摂取は、量とそのアルコール度数と関連なく、摂取の有無が歯周疾患と関連があるとの報告があり、質疑応答で“アルコールはどんな量でもだめか？”との質問で盛り上がりました。「日本、新潟のおいしいお酒は調査には含まれていないので大丈夫かもしれませんよ…」と最後に Pitipat 先生は付け足されておりました。

私が本シンポジウムで最も興味をもっていた口腔疾患と QOL との関連については、ニュージーランドオタゴ大学の Thomson 先生が講演されました。今まで歯科疾患と QOL についていろいろな関連性の調査が報告されてきましたが、今回の Thomson 先生の発表の中に、子供がう蝕になると親の QOL が下がるという調査報告があり、歯科疾患がある本人だけではなく、QOL は家族の疾患とも関連があるという着眼点に、「目からウロコ」、と驚かされされました。

糖尿病と歯周疾患についての研究を長年研究されているミシガン大学の Taylor 先生や、新潟スタディーに携わる新潟大学の吉原先生、他さまざまな研究について講演の後、シンポジウム全体での質疑応答がありました。残り時間が少なかったせいか、英語で討論することになかなか日本人が不慣れなせいか、活発な議論にはならず、もっと積極的な討論ができるためのトレーニングの必要性を感じました。

自分だけでは、多くのことを学ぶことはできませんので、今後も積極的に学会等に参加し、あらたな知識や研究への姿勢など、多くの学びの機会を得ていきたいと思っております。

事務局より

ホームページの開設・更新

ホームページには、過去のニューズレターや総会抄録集の情報を載せました。各団体とのリンクも順次はらせていただけたらと考えています。

メーリングリスト（JAICOH-ML）に登録・投稿してください！！

メーリングリストの運用を開始しました。

各団体の活動やスタディーツアーへの募集のお知らせなども、ぜひ投稿ください。

なお、歯科保健分野における国際保健、地域保健に関心のある方は、誰でも登録できます。登録希望者は、1. 氏名、2. 所属、3. メールアドレスを、jaicoh-admin@umin.ac.jp までメール送信してください。数日以内に手続きします。問合せは、JAICOH 事務局 ML 担当 門井 jaicoh-admin@umin.ac.jp まで。

2010 年度会費納入をお忘れなく！

ニュースレター・NGO ダイレクトリによる国際歯科保健医療協力に関わる情報提供、シーズプロジェクトなど国際協力活動に関心のある若い人たちへ助成など本会の事業は皆様から納入いただく会費によって運営されています。つきましては、2010 年度の会費納入にご協力賜りますようお願い申し上げます。

年会費は、普通会員が 5000 円／年、維持会員が 10000 円／年、学生会員が 2000 円／年です。前回のニュースレターでご案内し、平成 22 年 12 月末日現在、41 名の方より入金いただいております。なお、今年 4 月以降に本会に入会していただいた会員の皆様からは、本年度会費をすでにいただいております。

※ 前回ニュースレターに同封した郵便振り込み用紙をご利用ください。

会費納入先（郵便振替）

口座 00410-9-599601

名称 歯科保健医療国際協力協議会

国際歯科保健NGOダイレクトリー

前回のものは 2002 年作成ですので、改訂作業に入ることとなりました。今回は、インターネットで公開し、毎年改訂することを前提としたいと考えています。実際の作業は、古川清香さん他をお願いいたします。各団体へ連絡させていただくこととなるかと思いますが、ご協力お願いいたします。

シーズプロジェクト

3 期ぶりに復活させましたが、応募はありませんでした。今後の方向性も考えなければいけません。ご意見があればお寄せください。

結局本号も、事務局で編集させていただいてしまいました。HP はつくったもののネタ切れで力尽きた感じですが、まずはメーリングリストを活性化させたいです。（中久木康一）